

# 核燃サイクルの推進と もんじゅ抜本の見直し

2016年9月21日  
原子力関係閣僚会議  
で決まったこの方針について  
全国紙+αの社説を比較

社説  
比較

今回は複数のキーワードで記述を抽出してみました。  
なお  
産経新聞は9月18日の『主張』で事前に扱っており、  
9月23日のポスターでも一部紹介しました。

全国紙の部数は2016年1月～6月平均(参考資料①)  
東京新聞の部数は2015年7～12月平均(参考資料②)

読売新聞

## もんじゅ「廃炉」 核燃料サイクルを揺るがすな

902万部

9月22日社説

核燃サイクル>

日本の原子力政策の要だ。頓挫させてはならない。

日米原子力協定>

高速炉を実現する能力がないと判断されれば、  
協定維持は難しい。

もんじゅ>

もんじゅが廃炉になれば、重大な政策変更である。  
原子力利用への影響を最小限に抑えるべきだ。

ASTRID>

まだ基本的な設計段階であり、実現性には不透明な面が多い。

産経新聞

## 高速増殖炉 「シンもんじゅ」を目指せ 核燃料サイクルは国の生命線だ

158万部

9月18日主張

核燃サイクル>

もんじゅは不要でも高速増殖炉と核燃料サイクルは必要不可欠

今はウラン価格が安定し、油価も下がっているが、  
この状態が将来も続くと見るのは早計だ。

核燃料サイクルによるウランの長期利用の実現が賢明な策

日米原子力協定>

もんじゅの廃止を、  
核燃料サイクルからの撤退準備と米国が受け止めれば、  
日本のエネルギー政策の将来は根底から揺らぐ。

もんじゅ>

高速増殖炉の真価を発揮する  
新たな「シンもんじゅ」の開発を期待したい。

ASTRID>

ASTRIDの共同開発も選択肢の一つであろう。

## もんじゅ抜きの核燃サイクルの展望示せ

9月24日社説

## 核燃サイクル&gt;

意義や実現性、コストなどについても改めて点検するときだ。  
そこでは透明性の高い議論が欠かせない。

273万部

## もんじゅ&gt;

私たちはもんじゅの延命にこだわらず、  
計画をゼロベースで見直すよう主張してきた。

## もんじゅ廃炉 サイクルの破綻認めよ

9月23日社説

## 核燃サイクル&gt;

核燃料サイクル政策の幕引きに踏み切るべきだ。

309万部

## 日米原子力協定&gt;

11月の米大統領選で選ばれる新政権がどう対応するかは  
分からない。

## もんじゅ&gt;

廃炉は当然だ。これまで決断を先送りしてきた政府の責任も、  
厳しく問われなければならない。

## ASTRID&gt;

ASTRIDが順調に進む保証はない。

## もんじゅ廃炉へ 無責任体制と決別を

9月22日社説

## 核燃サイクル&gt;

核燃料サイクル全体の見直しが問われている。

658万部

## もんじゅ&gt;

地元自治体への説明など山積する課題と向き合い、  
廃炉への歩みを着実に進めてほしい。

51万部

## もんじゅ、廃炉へ 大転換の時代に移る

9月22日社説

## 核燃サイクル&gt;

核燃料サイクルという国策も、ほとんど破綻状態なのである。

## 日米原子力協定&gt;

米国も(中略)日本の「核の潜在力」に対する警戒感を強めている。

## もんじゅ&gt;

もんじゅがなければ、核燃料サイクルは根本的に行き詰まり、  
日本の原発政策の大前提が崩れ去る。  
それは、核のごみを増やせない時代への転換点になる。

## 最後に一言

核燃サイクルは「原子力政策の要」「国の生命線」。。。はて？  
日本は原子力開発の最初から核燃サイクルを言い続け、かつての動力炉・核燃料開発事業団が発足したのが1967年10月。それ  
からほぼ半世紀、サイクルは一度も回ってませんし、今後の目処も立ってません。存在しない「要」「生命線」って何？